



暑中お見舞い申し上げます。

梅雨明け宣言したとたん35℃を超えるような暑い日が続いていますが皆さまにおかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。今年の梅雨は空梅雨だったと思われるものの山口県や岐阜県などのゲリラ豪雨による災害に見られるように各地で災害がおきやすい状況となっています。これらの被災者の方々には心からお見舞い申し上げますと共に、この先福井を始めこういったことがないよう祈らずにはられません。

さて、参議院選が終わりました。私自身、この選挙は山崎氏が勝つとか、自民党が勝つとかそういうレベルの戦いとは感じておらず、この10ヶ月間迷走と暴走を重ねた民主党政権にこれ以上独走させてはいけないとの思いで頑張って参りました。お陰さまで全国的にも自民党の大勝ということでホッと胸をなでおろしている次第です。いろんな方々のご支援を頂き、この場を借りて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



トピックス

新年明けてから現在にかけての私の活動の一端をご紹介します。

☆宮本たかしを育てる会－新春の集い



2月14日。私の後援会である「宮本たかしを育てる会」主催による「新春の集い」が開催されました。当日は奈良市長を始め、国会議員の先生方、各種団体の会長様など、来賓の方々を含む、約400名の方々にご参加いただきました。私のような者のためにたくさんの方々が日曜のお昼というおうちでゆっくりされたい時間にご足労いただけたことは身に余る光栄と感謝・感激でした。

皆さんからがんばって！との激励の言葉を頂きまして気持ちを新たにしました次第です。

☆東京大学FFF（フォーラム・フォー・ザ・フューチャー）との会合

4月21日。一年生議員3人（大森氏、鈴木宏紀氏、私）は福井県東京事務所において東京大学Forum for the Future（フォーラム・フォー・ザ・フューチャー：FFF）の森下裕介代表理事と藤井薫氏、2名との意見交換会を持ちました。

FFFとは学生をはじめとする若い世代から東京と地方の交流を活性化し、地方の理解を進めることにより地域再生を目指したいと考えている学生団体で森下代表が私のホームページをご覧になり直接メールを送ってくれたことからこの会合が実現したわけです。

当日は彼らの活動と福井県、特に観光営業部に関する施策で連携が取れないかという点を中心に議論が進められ、一定の成果は得られたと考えています。



☆Twitterははじめました

夏の初めの冷やし中華ではないですが、遅ればせながらTwitter（ツイッター：インターネット上で短い文章の現状報告ができるウェブページ。ツイットとは英語でつぶやき）を始めました。政治家は責任なくつぶやくもんじゃないと思っていたのですが、著名な国会議員の先生も利用しているということで、折々に政治的な側面での自分の思い等を発信できたらなあ。。。と思っています。http://twitter.com/t_miyamoto1964 どうぞ。

< 県政メモ～その2 福井県の地球温暖化対策 >

このコーナーでは一般県民の方々に知っているようで知られていないと思われる県政の諸課題について自分なりの解説をもとに記載させていただきます。第2回目の今回は福井県の地球温暖化対策についてです。

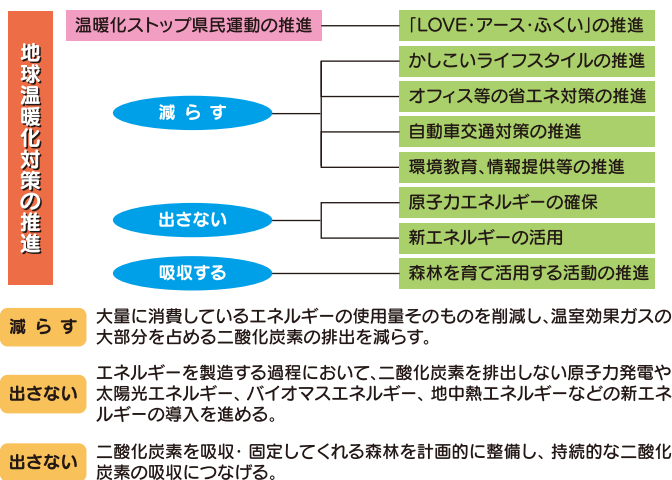
地球温暖化対策を議論する前に日本全体ではどんな目標が設定されているかということをお述べていただければなりません。京都議定書での約束として日本は2012年までに1990年比で6%、温暖化ガス(9割はCO₂)の排出削減をしなければなりません。実は平成20年2月に出された直近の速報値(2006年時点)では基準年に比べ減るところか6.4%の増加となっています。ですから単純に2006年を基準に考えると元々の目標値6%に2006年までに増えた6.4%を加え、12.4%を2012年までの6年間で削減しなければならないということになります。今の生活を続けていて到底達成できる数字ではないというのが正直なところです。現在、2012年以降の新たな枠組みについて議論がなされるわけですが(2012年までのきちんとした総括がないままその後の枠組みを議論しても意味はないと思うんですがねえ... ^ ^;)、鳩山氏が総理時代に2020年までに1990年比25%削減を打ち出していたことは現実を見ていないといえようがありません。

このような背景の中、福井でも「LOVE・アース・ふくい」を中心に県における目標値5%を達成すべく温暖化ガスの排出削減に取り組んでいるわけですが、ここで皆さまがあれっ?と思われるのは「福井には原子力発電所が13機もあり目標達成は簡単なのでは?」という点だと思います。その通りなのですが、実は京都議定書における温暖化ガスの排出量の



カウント方法では、発電におけるCO₂削減については発電所の場所ではなく、その電力の利用している地域においてカウントされるのです。つまり福井県においていくら原子力発電所の稼働率を高めCO₂削減に努力してもそのカウントは全部、関西地区にて計上されるということなのです。そこで福井県では「もし原子力発電所がなかったら関西地区の温暖化ガス排出量を約40%引き上げます」と、いかに関西地区が福井県からメリットを享受しているかをPRしているのですが、関西地区も理解してはいるものの例えばそれを経済的な価値として還元するようなことには当然ながら否定的な状況です。福井県としては少々乱暴ですがエネルギー移転税制と名付けカーボンフリー(CO₂を出さない)・エネルギーを他地域から移転する場合に税金を掛けるくらいの制度を国に訴えることも必要なのかもしれません。

施策の体系



一般質問

先の6月議会での質問について簡単に記載いたします。

今回の質問の状況はライブにてテレビ放映されたのですが、テレビ放映時の質問時間は5分短くなります。こんな状況下で質問したものですから焦る焦る...(^ ^;) テレビ放映を帰って録画で見たのですが機関銃のようにしゃべりまくる感じで余裕は見られませんでした。主な内容は以下の通りです。

1. 嶺南地区をIT関連産業の集積地であるアメリカ、シリコンバレーのような原子力産業の集積地「アトミックバレー」を模索すべきではないか。
2. 我が県のCO₂削減に関する貢献度を慶応大学などと共同研究がなされたが、その結果についてどうアピールしているか、また、その反響はどの程度のものか。
3. 地産地消推進に関する計画上の目標項目として直接的に地産地消率を設定すべきではないか。
4. 観光営業部における政策合意目標「外国人観光客の宿泊数」が大きく目標を下回った理由をマクロ経済の低迷と新型インフルエンザの蔓延としているが、日本全国での落ち込みに比べ福井県のそれがはるかに大きいことから本県特有の理由があるのではないか。

これらの質問に対し、今回は珍しく総じて前向きな答弁を理事者から頂きました。

